

- スローガン**
1. 下水道による残業務の安定的継続のため、合理化学業計画の推進、転換業務の獲得
 2. 下水道に接続されない浄化槽（合併）の社会的地位の確立
 3. 新浄化槽維持管理システムの推進
 4. 浄化槽（合併）を併用した農業集落排水処理事業計画の実現
 5. 市町村の責務である一般廃棄物処理計画の策定推進
 6. 一般廃棄物収集運搬業の責任業務の遂行

広報 福島環整連

発行
福島県環境整備協同組合連合会
 住所/伊達郡桑折町大字伊達崎字前川原田3番地
 TEL 024-573-0710 FAX 024-582-5370

発行者 山川正人
編集責任者 高橋純一



ごあいさつ 新たな交流に大いに期待
福島県環境整備協同組合連合会
会長 山川正人

先ず冒頭に、本年1月2日に逝去された全国環整連相談役及び当県連顧問の故 根本茂さまのご訃報に謹んで哀悼を心よりお祈り申し上げます。根本さまは、地元いわき市での活躍はもちろんのこと、当県連の元となつた福島県清掃組合連合会にて理事や専務理事として活躍し昭和50年の当県連設立に努力され、翌年の昭和51年より平成10年までの23年間、当県連2代会

長として在職時には、全国環整連及び同東北地区協議会の副会長・会長を歴任されると共に、関連団体である全国浄化槽団体連合会東北地区協議会や県浄化槽協会でも重責について活躍され、県内だけでなく全国の尿清掃及び浄化槽維持管理に関わる問題解決に奔走され業界の発展に寄与されました。その功績に感謝と敬意を表し哀悼の意を申し上げます。本当にありがとうございました。

あらためまして、皆さま、本年度も当連合会の活動にご理解・ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、本年度総会の会長所信

に述べた様に、当連合会は浄化槽設置基数や保守点検・清掃の維持管理状況などが正確に反映された台帳作成に寄与するため7年ぶりに開催された廃棄物の知識を深める「廃棄物関連委員会研修会」、浄化槽・廃棄物関連両委員会の一年間の活動報告となった「全環連東北地区協議会合同研修会」などの各種研修会、そしてその準備に伴う浄化槽・廃棄物関連各委員会の複数開催や全環連全国大会・全清連全国研修会にも、県連会員や青年部だけでなく県清掃事業協議会会員にもお声掛けして運営やご参加を頂きました。当連合会の活性化を感じております。そして私個人としても、県内外で開催された廃

棄物及び浄化槽関連の各行事に参加させて頂き、より知識や見識を深める事が叶っております。皆さまありがとうございます。

結ぶに、青年部員内の新しいレクリエーションとして、ゴルフを新たに始められた様であります。5年ぶりに開催した県連ゴルフコンペも大いに盛り上がった様であります。各委員会活動や研修会、その後の懇親会だけでは生み出れない新しい交流が芽生える予感がします。積極的にバックアップ頂いている本多・猪俣両副会長にも感謝申し上げます。

今後多くのご事業を推進して参りますので、引き続きご理解・ご協力を宜しくお願いします。

総会では、浄化槽や一般廃棄物の適正な維持管理に向けた本年度事業計画を決めた。また、会長所信にて、昨年度全国的に調査された浄化槽維持管理状況の環境省からの発表を受けて、設置基数や保守点検・清掃の維持管理状況などが正確に反映された浄化槽台帳作成に寄与するため協力を惜しまないことや、継続して当連合会青年部の経験や知識の底上げ、互いを理解する機会の創設、そして私たちの

業務に直結した対内・外的活動などを積極的に実施できるように、各委員会を通してバックアップするとの宣言がなされた。

議事では議案第1号の令和5年度事業報告承認の件から第7号の役員報酬決定の件までを審議し、収支決算、事業計画、収支予算、特に委員会及び青年部活動活性化のため浄化槽対策費と青年部活動費の増額、そして事務委託費減少に伴う組合員賦課金の減額などを可決した。

事業計画の柱は①適正業務の推進と適正料金の確保、②組織強化対策活動の推進、③下水道計画の見直し等行政機関への要望活動等の展開強化、④浄化槽維持管理システムの徹底、⑤浄化槽保守点検・清掃技術のスキルアップのための研修事業、⑥改正浄化槽法への対応について、⑦廃棄物リサイクル対策と環境経営の推進など。

終了前には、浄化槽委員会の

課金の減額などを可決した。事業計画の柱は①適正業務の推進と適正料金の確保、②組織強化対策活動の推進、③下水道計画の見直し等行政機関への要望活動等の展開強化、④浄化槽維持管理システムの徹底、⑤浄化槽保守点検・清掃技術のスキルアップのための研修事業、⑥改正浄化槽法への対応について、⑦廃棄物リサイクル対策と環境経営の推進など。

また、通常総会後、懇親会が開催され、ご来賓として前衆議院議員 根本 匠様、県浄化槽協会 紺野正雄会長が出席しご祝辞を賜った。

また、この新聞で個別にご報告させて頂いておりますが、本県で7年ぶりに開催された廃棄物の知識を深める「廃棄物関連委員会研修会」、浄化槽・廃棄物関連両委員会の一年間の活動報告となった「全環連東北地区協議会合同研修会」などの各種研修会、そしてその準備に伴う浄化槽・廃棄物関連各委員会の複数開催や全環連全国大会・全清連全国研修会にも、県連会員や青年部だけでなく県清掃事業協議会会員にもお声掛けして運営やご参加を頂きました。当連合会の活性化を感じております。そして私個人としても、県内外で開催された廃

棄物及び浄化槽関連の各行事に参加させて頂き、より知識や見識を深める事が叶っております。皆さまありがとうございます。

結ぶに、青年部員内の新しいレクリエーションとして、ゴルフを新たに始められた様であります。5年ぶりに開催した県連ゴルフコンペも大いに盛り上がった様であります。各委員会活動や研修会、その後の懇親会だけでは生み出れない新しい交流が芽生える予感がします。積極的にバックアップ頂いている本多・猪俣両副会長にも感謝申し上げます。

令和6年度通常総会

**7つの柱で県連委員会活動の活性化を推進
令和6年度も継続して次世代育成を重視**

福島県環境整備協同組合連合会は5月24日、郡山市の郡山ビューホテル・アネックスにて令和6年度通常総会を開いた。総会冒頭にて、能登半島地震発生直後、当県連を代表し災害支援を行った日東産業(株)・松宮(株)の2社・4名に感謝状と記念品の贈呈が行われた。

総会では、浄化槽や一般廃棄物の適正な維持管理に向けた本年度事業計画を決めた。また、会長所信にて、昨年度全国的に調査された浄化槽維持管理状況の環境省からの発表を受けて、設置基数や保守点検・清掃の維持管理状況などが正確に反映された浄化槽台帳作成に寄与するため協力を惜しまないことや、継続して当連合会青年部の経験や知識の底上げ、互いを理解する機会の創設、そして私たちの業務に直結した対内・外的活動などを積極的に実施できるように、各委員会を通してバックアップするとの宣言がなされた。

議事では議案第1号の令和5年度事業報告承認の件から第7号の役員報酬決定の件までを審議し、収支決算、事業計画、収支予算、特に委員会及び青年部活動活性化のため浄化槽対策費と青年部活動費の増額、そして事務委託費減少に伴う組合員賦課金の減額などを可決した。

事業計画の柱は①適正業務の推進と適正料金の確保、②組織強化対策活動の推進、③下水道計画の見直し等行政機関への要望活動等の展開強化、④浄化槽維持管理システムの徹底、⑤浄化槽保守点検・清掃技術のスキルアップのための研修事業、⑥改正浄化槽法への対応について、⑦廃棄物リサイクル対策と環境経営の推進など。

終了前には、浄化槽委員会の





令和6年11月8日(金)、郡山ビューホテル・アネックスにおいて、当県連主催にて「令和6年度北海道・東日本地区協議会理事會及び研修会」が開催された。

本年は青年部東日本地区協議会研修会も当県での開催となったため、数年ぶりに親会と青年部の合同開催となった。県外39名、本会35名の計74名が参加。理事會では、昨年入会された新潟県環境システム協同組合 近会長同席のもと、今後の地区協議会総会・研修会及び全国大会の地区内開催順番の再確認が行われた。研修会では、昨年再編



全国環整連・北海道・東日本地区協議会・青年部東日本地区協議会 合同研修会開催
浄化槽委員会・廃棄物関連委員会 両委員長より事業発表



山田久専務理事を迎え最新の知識を深めた「廃棄物関連委員会研修会」

令和6年7月22日(月)、郡山ビューホテル・アネックスにおいて、廃棄物関連委員会主催の研修会を開催した。当日は、本会理事をはじめ廃棄物関連委員会と青年部、そして福島県清掃事業協議会から25名が参加。

物関連全般の最新知識を深めることができる有意義な研修会となった。当日の早朝に発生した東海道新幹線名古屋・浜松間の脱線事故の影響で、様々な列車を乗り継ぎながら、なんとか研修会開始30分後に無事会場入りされた山田専務からは「地元の廃棄物運搬・処理を司る者として、7年間も公式な廃棄物研修会を開催しなかったのは如何なものなのか。毎年6月末に環境省が公表する新方針を理解しなくてはならない」とお疲れのところ

しっかり我々に活も入れて頂き、研修時間延長後の質疑応答の際には「人口減少での業務減少に対して、我々の業務存続のためには業者間の『競争』から『共創』にシフトチェンジし、協業化など団結と結束が必要である」と明確な回答があった。終了後は、会場を別に移して意見交換会も実施された。今後は、当連合会も定期的に廃棄物関連の研修会を開催せねばならないと心に期した。

福島県への要望書提出
浄化槽による水環境の保全と計画的な整備推進の実現を求める



令和6年10月7日(月)、当連合会と県合併処理浄化槽普及促進協議会会長である高松義行本宮市長、県浄化槽協会の紺野正雄会長は、3団体合同で福島県に對する要望活動を行い、浄化槽を通じた水環境の保全と計画的な整備推進を図るようその実現を強く訴えた。

要望は、①浄化槽法第54条に基づき協議会の設置、②浄化槽分野におけるDX化推進の支援、③浄化槽の適正な維持管理に関する啓発、④被災及び老朽化した合併処理浄化槽の更新費用に係る補助創設、⑤猪苗代湖周辺地域におけるりん除去型浄化槽の維持管理費補助制度の創設、⑥環境省主催の浄化槽トッ

～おめでとうございます～
岡 光義 代表理事 環境大臣表彰を受賞

令和6年10月1日(火)に東京都市ヶ谷で開催された「浄化槽の日」第38回全国浄化槽大会にて、当県連にて副会長・会長を歴任され、本県の健全な浄化槽維持管理に長年寄与されている、いわき市環境整備事業協同組合の岡 光義 代表理事が、循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰を受賞されました。当日は、ご本人が上京され他の受賞者と共に表彰を授与されました。岡 光義 代表理事の今後のご活躍をご期待しております。





令和6年10月10日(木)、山形県のパレスグランデールにおいて、「全国環整連第48回全国大会」が開催された。第48回全国大会は、山形環整連の創立60周年事業の一環として開催され、昨年同様に対面式典、講演・パネルディスカッション、大会宣言、懇親会が1日開催で行われた。本会からは青年部員を含め51名の参加となった。

式典終了後、「一般廃棄物の適正処理と処理計画について」と題して環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課長の講演、そして「人口減少に対応した行政と業界の在り方について」をテーマにパネルディスカッションが行われた。次年度は東京都内で予定されている。

全国環整連全国大会 in 山形

優良役員表彰

(有)いわき環境センター

長尾 昌也

(株)福島県南環境衛生センター

井坂 和吉

優良従業員表彰

勤続30年の部

(株)昭和衛生センター

大石美恵子

勤続20年の部

会津清掃(有)

星 えり子

青木 健

吉田 賢

(敬称略)

いわき市環境整備事業協同組合

令和6年10月23日(水)、東京都内の砂防会館で開催された「全国清掃事業連合会全国研修大会」に、山川会長、本多副会長、斎藤廃棄物関連委員長、高橋青年部長、福島県清掃事業協議会より副会長ほか会員10名が出席した。5年ぶりにコロナ禍以前の規模での開催となり全国から400名が終結し、東海大学副学長の特別講演や課題提起、大会決議、スローガン提案が行われ全会一致で採択された。



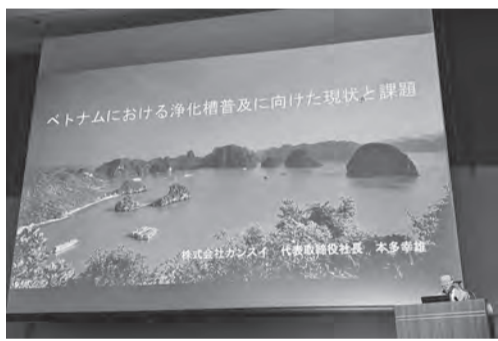
全清連全国研修大会・浄化槽トップセミナー宮城 開催



また、翌日24日(木)は、宮城県仙台市江陽グランドホテルで「浄化槽トップセミナー宮城」が開催され山川会長が出席した。東北および宮城県での開催は8年ぶり。環境省などからの4講演を、宮城県内の行政関係者や県・市議会議員、東北各地の浄化槽団体や業者と共に研修し、浄化槽の現状や今後の見込みなど最新の情報が提供された。

今後もこのような他

令和6年10月30日(水)より2日間、長崎県で開催された「第38回全国浄化槽技術研究集会」に本県連の本多幸雄副会長と田原義久理事が参加され、翌日の「第46回浄化槽行政担当者研究



集会」の浄化槽検査員研究会内で、本多副会長が「ベトナムにおける浄化槽普及に向けた現状と課題」という題で講演を行った。

また、同日のパネルディスカッション「浄化槽国際展開をさらに推進するために必要なこと」内で、田原理事が「海外における浄化槽の維持管理について」という提案を行った。

平成30年〜令和2年の5年間、独立行政法人国際協力機構(JICA)中小企業海外展開支援事業「案件化調査」に参加され、日本で独自に発展した生活排水処理技術である浄化槽のベトナムへの普及を図り、同国の水環境改善に貢献するため、生



本多副会長と田原理事が「全国浄化槽技術研究集会」で講演・提案

活排水処理の現状、導入済み浄化槽の現状等を調査し、適切な維持・管理、法制度の整備や運用の重要性を紹介する活動を行った二人の経験と実績が披露された。

令和6年度 浄化槽行政職員研修会 浄化槽の「これから」など最新の情報を提供

令和6年8月7日(水)、郡山市のユラックス熱海で開催された「浄化槽行政職員研修会」に山川会長が出席した。福島県合併処理浄化槽普及促進協議会が毎年開催し、本年は福島県及び県内各市町村の浄化槽担当職員62名が出席。

福島県生活環境部一般廃棄物課主事 照沼大誠様より「浄化槽行政について」、全国浄化槽推進市町村協議会 事務局長 久川 和彦様より「浄化槽法及び関係法令」「全国浄化槽行政担当者会議の概要」などの説明が行われ、近年あらためて排水処理施設として脚光を浴びている浄化槽について、本年度や今後の見込みなど最新の情報が提供された。

例年1/3ほどが新規の参加者となることと、講師の講演だけでなく参加者同士でも各市町村における現状の意見交換が行われた。



青年部から

青年部定時総会開催 青年部のバトン、 瀬戸氏から高橋氏へ



福島県環境整備協同組合連合会青年部では、令和6年5月24日(金)郡山ビューホテル・アネックスにおいて定時総会を開催した。本出席20名、委任状出席4名。議案については満場一致で意義なく承認され、役員改選については青年部長を2期4年務めた瀬戸崇志氏が退任し、新役員改選により(有)好間衛生社の高橋純一氏が就任した。

また、アメリティ郡山協同組合所属クボタ環境衛生(有)横山雄一氏が卒業され、花東と記念品が贈呈された。

11月1日(金)には臨時総会が開催され、本郷清掃(有)の田中信清氏が新入部員として加わった。



全国環境連青年部・東日本地区協議会 青年部長会議研修会開催 岩手・宮城・山形・秋田・新潟・静岡の各県より20名参加

令和6年7月11日(木)、いわき市のいわき環境整備館において「令和6年度東日本協議会第1回青年部長会議」と研修会が本県青年部の設営で開催された。当日は、全環連 山本青年部長ほか岩手・宮城・山形・秋田・新潟・静岡の各県より20名、本県の高橋青年部長ほか12名の青年部員、本会から山川会長・本多副会長、開催組合から長尾副理事長・近藤専務が参加。

研修会は、(公社)福島県浄化槽協会 総務部次長(兼)検査部主任検査員 榎木康仁氏を招いて、第1部「福島県における浄化槽の普及、促進について」、第2部「ごも環境教室について」という2テーマで、本県の浄化槽施工・保守点検・

清掃の各業者が手を組んで取り組んでいる事業の報告と説明を行い、各県の参加者から多くの質問が寄せられた。

終了後には、青年部長会議と懇親会、翌日には懇親ゴルフコンペが行われた。



青年部研修会 身近に潜む労務関係の落とし穴 ～ケーススタディを中心に～

令和6年2月29日(木)、弁護士で社会保険労務士の都築直哉氏を講師に迎え「青年部研修会」を開催した。

取引や労務関係では「契約書」の作成が重要であることや「働きやすい環境」を整えることで労働トラブルを未然に防げることなどが紹介された。

労働関連法規は使用者に対して厳しいため、事前に弁護士や社会保険労務士に相談することが重要なこと、また中小企業診断士などに相談して少しずつ組織を改善していくことが業績向上のきっかけになるとしめくくられた。



本会理事及び青年部は、先遣地視察として令和6年3月5日(火)～6日(水)に三重県津市及び美並伊勢町の2施設、4月18日(木)～19日(金)には埼玉県春日部市に設置されている首都圏外郭放水路の視察を行った。



三重県では、給水を得られにくい場所でも使用できる循環型水洗トイレ「ミニソフイ」や雨水貯水活用システム「アメリカ」・土壌微生物膜処理浄化槽「ソフィール」を併用した公共トイレの使用状況、そして埼玉県では、国道16号の地下約50mにある首都圏を水害から守る世界最大級の防災施設を確認した。

令和2年2月に行ったベトナム視察以来の遠方への視察研修会、そして青年部長期間が感染症拡大防止期間と重なった瀬戸前青年部長の想いもあり、どちらも多くの県連理事や青年部員が参加した。終了後は、現地に講師を交えた意見交換会も実施された。

お知らせ

令和7年度通常総会は
5月30日(金)
母畑温泉 八幡屋 (石川町)
で開催します
ご出席お待ちしております

